



Gunma Association of Occupational Therapists

一般社団法人

# 群馬県作業療法士会ニュース

「からっ風通信」

第128号 2017年3月発行

## 巻 頭 言

### 「地域」の作業療法と「病院」の作業療法

anomira (あの名曲の作者が嫉妬する未来を)  
代表 北爪浩美



「地域」という言葉をよく耳にする。大学を受験する高校生の決まり文句は「地域に貢献する、あるいは地域で働く作業療法士になりたい」だ。一方で卒業後はおよそ9割の学生が一般病院に就職する。卒業生の決まり文句は「まずは病院」である。急性期や回復期で疾患の基礎を学ぶ目的が半分、先輩が多いからという目的が半分、気持はよく分かる。一般病院の作業療法に対するニーズも非常に高く、今のところ就職は引く手数多である。

日本作業療法士協会の方針は「教育課程の中で生活行為向上マネジメントを履修する」であるが、思わぬ落とし穴がある事に気付く。学生がICFを十分に理解できないまま、評価を進め、対象者の希望のみを優先させ、障害の基本構造を見落としがちになることが多く、本来留意すべき点を見逃してしまうのである。こうなると確かに「まずは病院」という発想になるのであろうが、果たしてそうなのだろうか。

急性期や回復期こそ、予後や生活を予測する力が必要であり、ビジョンに基づいた治療が将来を決定づける。発達期の作業療法が正にそうで、乳幼児期に少なくとも10年後が思い浮かぶようにならないければ、アプローチがどう関連付けられ将来に繋がるのか、育ちの中で経験させてあげるべきことは何かが分からない。どの領域においても、対象者の方が安定した社会生活を送るためには、身体認知機能、精神社会的機能が十分に評価され、ICFに基づき方法が検討される必要がある。いわゆる「地域の作業療法」はこれが最も重要視される分野であり、社会資源についての知識も必要だ。

発達期作業療法では急性期での入院はあるものの、ほとんどが自宅で過ごし幼稚園や学校生活を送る。「いつも地域」である。教育委員会と作業療法士会が連携して実施している学校への「外部専門家派遣事業」は作業療法士への希望が増加しており、地域の幼稚園や小中学校に多くの作業療法士が出向き、学校生活での学びのサポートをしている。40分程度の授業参観をさせて頂き、身体認知機能面および環境面について評価、分析し、対処方法を学校にお伝えするのだが、短時間での適切な評価とプログラム立案はなかなか知恵を使う作業である。この時、本当に疾患や障害の基本構造をしっかり押さえ、発信されるサインを見逃さずに適切に評価しなければいけないと痛感する。

地域こそ、基本に基づく評価が必要で、対応方法は生活の中に入り込まなければならない。地域で生活期を過ごされる対象者の方に何か必要であったかを、地域から病院に伝えることが、病院に就職する「予後予測が難しい新人作業療法士」を確実に育てる一助になる。これならば、就職の際に「地域から病院」の選択肢も十分納得できる。地域で活動中の先輩方に頼る所は多く、作業療法士が医療職として納得の作業療法を急性期から実施するには、地域から病院に情報を伝えることが大切なのではないだろうか。



# 一般社団法人群馬県作業療法士会 第2回 理事会議事録

日時：平成28年9月14日(水) 19:00～

場所：群馬医療福祉大学

出席者：新井・関根・生須・勝野・品田・高橋・立澤・都丸・長谷川・山口・小林・廣津・町田

職業倫理	23名
保健・医療・福祉と地域支援	21名
作業療法における後輩育成	20名
作業療法生涯教育概論	18名

4) 今後の開催予定

H28.10.29(土) 自殺予防事業(基礎ポイント研修)

H28.11.16(日) 現職者選択研修(身障)

(2) 生涯教育制度推進担当者会議H28.10.15～16 参加予定。

## I. 報告事項

### 【会長】

近況報告。小林夏子氏が厚生労働大臣賞受賞となり、9月25日協会50周年記念式典で表彰される。

### 【事務局】

#### [OT協会]

- (1) パンフレット・広報誌オペラ等の配布申し込み手続きする。
- (2) OT協会 女性会員の県士会活動参画について 福利厚生部の部員として中澤氏が1年間の役職に着いた。

#### [群馬県]

- (1) 第64回精神保健福祉全国大会の後援依頼について承諾の手続きを行った。(健康福祉部)
- (2) 群馬県地域医療介護総合確保基金事業補助金に係る内示について報告あり。(健康福祉部介護高齢課)

#### [その他]

- (1) ケアマネフォーラムXⅢ抄録集への広告掲載(県介護支援専門員協会) 1/4面依頼する。
- (2) 第9回群馬県知的障害者摂食・嚥下研究会 後援依頼について、後援承諾の手続きを行った。
- (3) 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2016ぐんま」の後援依頼について、承諾の手続きを行う。(群馬県健康づくり財団)
- (4) 県歯科医師会主催多職種シンポジウムへの講師派遣依頼について、回答した。
- (5) H28年度第1回・2回多職種協働先進地区事例についての講習会の開催について案内があった。(県歯科医師会)
- (6) POS連絡協議会 訪問リハの研修会実施予定。(12/11 2/12) 県と医師会との共同シンポジウムも計画中。できるだけ多くの会員も出席できるように案内していく。
- (7) 名簿発送予定(9月中)

#### [ブロック支部組織体制強化担当部門]

- (1) H28年9月24日に部門責任者 主任者会議 出席は68施設(38%)で出席者は75名で実施する予定。

### 【教育部】

#### (1) 教育部研修会開催報告

- 1) H28.7.9(土) 基礎ポイント研修「手指腱損傷後のハンドセラピー～屈筋腱損傷後のセラピーとスプリント～」  
講師：奥村修也OTR  
(聖隷浜松病院リハビリテーション部)  
参加者 会員29名 非会員5名
- 2) H28.8.21(日) 現職者共通研修  
作業療法の可能性(近藤健OTR) 12名  
日本と世界の作業療法の動向(新井健五OTR) 15名  
実践のための作業療法研究(小林昭博OTR) 15名  
事例報告と事例研究(秋元裕太郎OTR) 18名
- 3) H28.9.4(日) 現職者共通研修

### 【学術部】

#### [機関誌編集グループ]

投稿論文9編投稿され、査読中。1月中旬に発行予定。

### 【広報部】

#### [公益事業グループ]

- (1) H28.7.25(月)～8.6(土)にかけて、県内の高校生を対象に高校生作業療法体験を実施した。県内24施設に協力を頂き、26高校70名弱の高校生の参加があった。(アンケート集計中)参加高校生に、協会50周年事業予算で作成したクリアファイルを配布した。
- (2) H28.9.3(土)こころのふれあいバザー展に県士会のブースを出展した。県内精神科病院の協力を得つつ(運営参加者7施設OTR14名、学生ボランティア8名)、うちわ作り、スタンプラリー、元気になる作業を記入してもらう「元気の木」を行った。参加は、スタンプラリー約150名、元気の木80名であり、うちわ約80本、油取り約250個を配布した。
- (3) H28.10.30(日)元気プラザ21で行われる健康フェスタinまえばし2016に「健康を高める作業活動体験コーナー」としてブースを出展予定。
- (4) H28.12(予定)イオン高崎で一般向け広報活動として、作業療法フェスティバルを実施予定。内容については現在検討中。

#### [ホームページ管理グループ]

- (1) 業者と連携しHPの更新作業。  
・HPの更新作業を各グループで行うよう検討中。

#### [ニュース編集グループ]

- (1) 県士会ニュース7月号の発行を行った。
- (2) 7月より10月号の原稿依頼等の発行準備を進めている。
- (3) 9月末に10月号の原稿締め切り予定。

#### [広報企画グループ]

- (1) 「まえばし健康フェスティバル2016」と「OTフェスタ」に関する企画の発案およびそれに関わる情報収集を行っている。
- (2) 小中学校への広報活動に向けた、教育委員会等からの情報収集・連絡調整についても検討中。

### 【地域作業推進部】

#### [地域包括ケア推進グループ]

- (1) 日本OT協会の伝達講習(地域ケア会議に資する人材育成研修、6月25・26日)に都丸理事と青木氏が参加した。1日で実施する研修会の予定を計画中であり具体的方法を検討。
- (2) 平成28年度地域医療介護総合確保基金(介護人材)による、士会員向けの研修実施を計画中。単に最新の情報を得たり、県外の先駆的取り組みを紹介する研修ではなく、士会員が身近に感じられるような研修を計画。
- (3) 行政に向けたニーズ調査も継続して実施する予定。



(4) 長谷川理事のブロック支部強化事業との連携。9月24日(土)の主任者会議の際に、地域OT推進部活動報告を実施予定。

#### [認知症支援推進グループ]

- (1) 会議の開催: 5月12日(木)、6月28日(火)に実施
- (2) 会員向けのアンケートを実施する予定。
- (3) OT協会で開催する認知症に関する研修には、ひゅーげの廣崎氏に参加予定。廣崎氏には、当会の推進員としての活動の了承を得ている。(OT協会の研修受講後に伝達講習予定)

#### [特別支援教育推進グループ]

- (1) 特別支援学校センター化機能強化事業  
OT派遣については派遣依頼(実施済み含む)  
9月6日現在 21件  
※第50回日本作業療法学会にて27年度までの経過と課題を口述発表。
- (2) パイロット事業  
教育委員会を介して全県小中学校および特別支援学校にアンケート調査実施し、返却済み。集計作業中。(アンケートに協力いただいた学校数 93校/123校 小学校 40/53校 中学校 32/53校 特別支援学校 21/21校)
- (3) 毎月1回研修会等開催。パイロット事業の進捗状況の報告、ケースカンファ等。\*今後アンケートの集計結果を参考にパンフレットを作成し、学校へ配布予定。  
・特別支援の取り組みは他県士会からも評価されている

#### [第19回群馬県作業療法学会・第2回北関東信越ブロック学会]

- (1) 第2回北関東信越ブロック学会  
後援: 群馬県、前橋市、高崎市、藤岡市、前橋観光コンベンション協会  
応募演題数: 42題(県外: 12題)  
自助具治療器具等: 30作品 展示業者: 8社  
広告数: 8社  
会場定員の都合もあり、公開講座とシンポジウム、協会50周年記念講演についてはネット配信するための準備を進めている。前橋コンベンション協会からの支援も受けられる予定。42演題あつまり、県外からも12演題が集まった。
- (2) 群馬県士会30周年(協会50周年) 記念シンポジウム  
テーマ: 「地域生活を支援するーそれぞれの立場からー」  
会場: ミレニアムホール  
講師: 尾池久美子氏  
(県健康福祉部介護高齢課認知症対策主監)  
小沼説雄氏 群馬県介護支援専門員協会理事、  
居介護支援「元助」  
田中志子氏(医療法人大誠会 内田病院理事長、医師)

座長: 新井健五氏 (群馬県作業療法士会会長、  
介護老人保健施設ミドルホーム富岡)

- (3) 記念特別講演 テーマ:  
生活行為の向上を支援する作業療法生活・地域・連携  
講師: 中村春基氏 (日本作業療法士協会会長)  
(座長: 関根圭介)
- (4) 閉会式(表彰等) 会場: ミレニアムホール

## II. 審議事項

- (1) 地域連携推進部 会員向けのアンケートを実施の件  
⇒承認。
- (2) 教育部 研修スタッフの負担が大きい。退部する人が多いが、良い方法はないか? 士会員が講師の場合、運営スタッフの人数は削減しても良いのではないかと? ⇒検討する
- (3) 50周年記念式典  
1) 県知事表彰候補者 2名 提案あり ⇒承認  
2) 会場設定、来賓について  
⇒式典にふさわしい会場を検討できるようにする。  
挨拶を頂く来賓や招待来賓方についても継続検討。
- (4) 会員組織率調査を実施するべきかという議論について  
⇒厳密な調査は現実困難。調査をする労力をかけるほどか。現状の会員を増やすより、新卒の加入率を上げていくことの方が良いのではないかと? 正確なデータを出すのではなく、県内のOTの現状を把握すること問題意識を持ってもらうきっかけにしよう。目的を明確にして実施。
- (5) ホームページ管理グループについて  
1) 研修会情報のホームページ情報更新がなかなかタイムリーにできない  
⇒業者側の対応が遅い 業者の契約内容を確認  
2) 求人情報を掲載して収益が出て良いか?  
⇒一般社団法人なので問題無い  
3) 各部の部長などにホームページ更新の権限を提示する事は可能か?  
⇒HP管理グループはHP全体の確認をするのが役割。各部で更新できるようにし、部長が実施できる範囲と権限を明確化しておく。
- (4) 業者について HP全体の構成変更などを実施してもらう。  
⇒今後の継続契約については要検討。
- (9) 次回理事会について  
11月30日(水)19時からの予定

## 一般社団法人群馬県作業療法士会 第3回 理事会議事録

日時: 平成28年11月30日(水) 19:00~  
場所: 陽光苑  
出席者: 関根・生須・中澤・勝野・品田・高橋・立澤・都丸・長谷川・山口・小林・町田

### I. 報告事項

#### [会長]

- (1) OT協会50周年記念式典に会長・副会長参加。  
厚生労働大臣表彰受賞者小林夏子氏表彰。

(2) モンゴルのOT養成校の教員が群大で研修。

#### [事務局]

#### [OT協会]

- (1) 「特別表彰」候補者推薦について、依頼あり。
- (2) 映像版「日本作業療法士協会50年史」2本届く。

#### [群馬県]

- (1) H28年度認知症理解促進イベント開催について広報依頼  
(健康福祉部介護高齢課)
- (2) H28年度群馬県地域医療介護総合確保基金事業費補助金



交付決定通知届く。(健康福祉部介護高齢課)

#### 【その他】

- (1) 関東甲信越地区床ずれセミナー後援(日本在宅褥瘡創傷ケア推進協会)、H28年度群馬県社会福祉大会の後援(県社会福祉協議会)、前橋市・群馬医療福祉大共催事業「健康都市まえばし〜講演及びシンポジウム〜、の後援依頼について、承諾の手続きを行った。
- (2) 太田市介護認定審査会委員の推薦依頼に、酒巻氏、小林氏、増淵氏の推薦手続きを行った。
- (3) 30周年記念式典及び作業療法士会50周年記念式典に必要な備品・印刷等の準備を行った。
- (4) POS協議会の拠出金は会員数×100円となった。

#### 【ブロック支部組織体制強化担当部門】

- (1) 第1回群馬県作業療法士部門代表者・主任者会議報告
  - 1) 日時・場所:平成28年9月24日 群馬大学保健学科
  - 2) 出席者数:西毛ブロック21名、北・中毛ブロック33名、東毛ブロック20名、計74名参加。
- (2) 今後の予定
  - 1) 平成29年度 主任者会議の立案 H29.2月頃
  - 2) 会議の決定場所の決定H29.4月
  - 3) 会員実態アンケート調査の依頼通知H29.4月
  - 4) 名簿・メールアドレスの掲載の依頼通知H29.5月
  - 5) 名簿作成 H29.6月〜7月
  - 6) 第2回主任者会議開催H29.9月?

#### 【教育部】

- (1) 研修会開催(教育部関連)
  - 1) 10/29基礎ポイント研修 精神分野(自殺対策事業)参加者77名(うちOTR26名)
  - 2) 11/13現職者選択研修(身体障害領域) 参加者22名 基礎研修、実践研修、特別支援研修、地域連携等の研修のサポート。
- (2) 今後の予定  
H29.1.27(金) 19:00〜 基礎ポイント研修 発達分野  
OTも知っておきたい!!「ペアレントトレーニングの基本と実際」
- (3) 10/15.16 OT協会生涯教育制度推進担当部会議に立ち澤氏が出席した。制度の大きな変更はないが、全般の見直しに向けて動いている状態。必要に応じて案内していく。
- (4) H29年度自殺対策事業計画申請について  
普及啓発事業として、作業療法士・一般市民80名程度対象として、アーティスト(絵)を講師として招き、自身の生きがいや再獲得するまでの経験や現在進行形での思いを語ってもらう。人材養成事業として、作業療法士20名程度対象とし、ストレス対策としてのマインドフルネスを実際に体験し、日常での自身の生活と臨床で生かす

#### 【学術部】

##### 【学術研究グループ】

- (1) 第2回北関東信越ブロック学会(第19回群馬県作業療法学会)において演題査読を実施した。

##### 【学会支援グループ】

- (1) 第2回北関東信越ブロック学会(第19回群馬県作業療法学会)において会場運営に関する支援活動を実施中。
- (2) 現職者共通研修「研究法」の運営・講師について教育部と検討中。

##### 【機関誌編集グループ】

- (1) H28年度編集会議第5回第6回を開催した。
- (2) 機関誌「ぐんま作業療法研究vol.19,2016」の発行準備を

実施した。

内容は投稿論文:9題掲載予定、査読中。特集テーマ:「作業療法実践のポイント使って行こう!生活行為向上マネジメント」  
(1)総説・群馬県内でのMTDLPの取り組み (2)事例報告。ききゅう:テーマ「モンゴル国における作業療法教育支援」、書評。

#### 【広報部】

##### 【公益事業グループ】

- (1) H28.10.30(日)元気プラザ21で開催された健康フェスタinまえばし2016に「健康を高める作業活動体験コーナー」としてブースを出展した。プラ板のキーホルダー作りを実施した。
- (2) H29.1.29(日)イオン高崎で一般向けの広報活動として、作業療法フェスティバルを実施予定。内容については、アクティビティ(マクラメ、割り箸鉄砲等)、体験やぐんまちゃんとの写真撮影等を通してOTの紹介を行うと共に、OT認知度アンケートを実施予定。

##### 【ホームページ管理グループ】

- (1) 業者と連携しホームページの更新作業を行っている。
- (2) ホームページのレイアウトの変更に関して情報集取を行っている。

##### 【ニュース編集グループ】

- (1) 県士会ニュース10月号を発行した。
- (2) 1月号の発行の準備を進めている。

##### 【広報企画グループ】

- (1) OTフェスタに関する企画の発案及びそれに関わる情報収集を行っている。
- (2) 小中学校への広報活動に向けた、教育委員会等からの情報収集・連絡調整に関して検討中。
- (3) 広報企画グループで協議した内容に関しては、各グループ(主に公益事業グループ)へ報告し協議を行っている

#### 【地域作業療法推進部】

##### 【地域包括ケア推進部】

- (1) 第1回主任者会議で地域作業療法推進部の活動報告と部員募集を行った。
- (2) 日本作業療法士協会の伝達講習(地域ケア会議に資する人材育成研修、6月25.26日)研修会を11月27日(日)に実施した。計43名の参加。
- (3) H28年度地域医療介護確保基金(介護人材)による士会員向けの研修実施を計画中。単に最新情報を得たり、県外の先駆的取り組みを紹介するだけでなく、会員が身近に感じられる研修を計画中。
- (4) 行政に向けたニーズ調査も継続して実施する予定。

##### 【認知症支援推進グループ】

- (1) 全会員に向けてのアンケート実施。回答数は47名(11/27)
- (2) 日本作業療法士協会で開催するH28年度認知症作業療法推進委員会(11/19.20)に、推進委員として廣崎氏が参加、その他に加藤氏参加。
- (3) H28年度認知症作業療法推進委員会会議の伝達講習を本年度中に実施予定。
- (4) 家族会への入会は有志が個人レベル(自己負担)で進めている。
- (5) 地域作業療法推進部としての新規事業(認知症対応能力向上研修)を企画し、H29年度地域総合確保基金に1500千円程度で申請。

##### 【特別支援教育推進グループ】

- (1) 特別支援学校センター化機能強化事業  
OT派遣については、予算の関係で現在止めている状態。9月からは10件程。



(2)パイロット事業

アンケートの集計が終了。回収数は2000部程。今後は集計結果をもとに、パンフレットを作成予定。窓口の記載などを今後県教委と話を進める準備を進めている。

(3)研修会等

毎月1回開催。(2)の進捗状況の報告、ケースカンファ等。普通学校の派遣の依頼が多くなり、診断がついていない不器用な生徒の相談が学校から増えているため、手の機能を学習する勉強会を開催。

10/4アクリルコーンの可能性 北爪先生  
11/15手の機能解剖と作業療法 牛込先生

[第19回群馬県作業療法学会・第2回北関東信越ブロック学会]

(1)準備は進んでいる。

ページの運用を整理した方がよいのではないかと

⇒ 広報部と検討していく。

②各ブロック長会議も必要か ⇒ 検討していく

(4)OT協会は女性会員の活動参画を促していく事を検討。その一つとして学会時の託児所設置についても検討している。県士会としても県学会時に託児所設置を検討し依頼していく。  
⇒ 学会支援グループと教育部とも話し合い検討していく。

(5)家族会とのかかわりについて

⇒ 今後県士会がバックアップできるようになればよい。

(6)研修会会場の確保について

研修会会場を確保するための部員の負担を減らすため、会場情報、手続き、申し込み等、事務局で行っていく。  
(会場の場所・規模等の情報のストック)

(7)次回理事会について

H29.2月22日(水)19時からの予定

## II. 審 議 事 項

- (1) SIG申請依頼1件:「群馬ハンドセラピ研究会」⇒ 承認
- (2)群馬精神障害者社会復帰協議会から精神障害者ピアサポーターの広報・普及のため作業療法士会での研修会実施の依頼あり。教育部の研修として行いたい。  
(3/11 13:30~17:00 群馬県社会福祉総合センター 203A・B研修室) ⇒ 承認
- (3)ブロック支部組織強化
  - ①ブロック組織運営強化に関してはWeb等での情報提供やメーリングリストなどの運用が主要な課題となる。ホーム

# 「ゆとりと笑顔のある暮らし」お届けします

### 福祉用具販売

健康維持やより安全・便利にする用具をご提案します。

### 福祉用具レンタル

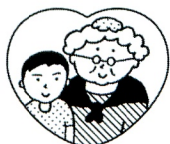
各種介護保険レンタル用具を取り扱っております。

### 住宅改修

介護知識を持った建築士「住環境プランナー」がお伺いします。手すり1本から保証書を発行いたします。



介護のことなら何でもご相談ください



## パナソニックエイジフリー介護チェーン ベルシャイン

〒379-2214 群馬県伊勢崎市下触町803番地1 TEL 0270-62-8189 / FAX 0270-62-8110



# 一般社団法人群馬県作業療法士会 第4回 理事会議事録

日 時：平成29年2月22日(水) 19:00～

場 所：陽光苑

出席者：新井・関根・勝野・品田・高橋・立澤・都丸・長谷川・山口・小林・廣津・中澤

## I. 報告事項

### 【会長】

- (1) OT協会 47都道府県委員会に参加した。学生会員について検討、会員管理についてOT協会員＝県士会員の構成を構築していく。(現在は協会員数と県士会員数にずれが生じている。群馬県は協会853名 士会員818名)
- (2) パイロット事業(発達)が今後モデル事業となる。
- (3) 学校作業療法士(仮) 窓口を決めておく。教育委員会と連絡をとり、また協会とも連携していく。
- (4) JRAT(災害時対応)について、整備が進んでいない。熊本士会から災害時の報告があった。士会でも今後整備を進めていく。

### 【事務局】

#### 【OT協会】

- (1) 介護予防・日常生活支援総合事業～研修参加者に小此木氏と青木氏の推薦手続きを行った。
- (2) OT協会特別表彰候補者に北爪氏の推薦手続きを行った。
- (3) 運転と作業療法にかかる都道府県士会協力者に、長谷川氏の推薦手続きを行った。

#### 【群馬県】

H28年度群馬県地域自殺対策強化事業費補助金の交付決定通達あった。(健康福祉部)

#### 【その他】

- (1) H28年作業療法推進活動パイロット事業ワーキングアンケート(広島県士会)に回答した。
- (2) ぐんま福祉機器展2017後援(群馬福祉機器展樹高委員会事務局)依頼に、承認の手続きを行った。
- (3) 利根沼田障害支援区分認定審査会委員に川又氏、前橋市介護認定審査員に勝山氏・長谷川氏、前橋市自立支援審査委員に外里氏、利根沼田介護認定審査員に小此木氏、富岡市介護認定審査員に新井氏・茂木氏・吉澤氏・北川氏、太田市障がい認定審査会委員に今井氏、伊勢崎市介護認定審査会委員に高木氏、高崎市介護認定審査会委員に平石氏・柴田氏・八木氏・中澤氏の推薦の手続きを行った。
- (4) POS連絡協議会H28年度会費76,600円送金した。

#### 【ブロック支部組織体制強化担当部門】

- (1) H29年度ブロック組織強化事業  
1) 部門代表者主任者会議(第2回)  
H29.10月を予定。開催場所は未定。候補⇒群馬大学医学部附属病院、群馬大学保健学、対象は各施設の作業療法部門代表者、主任者。議題は会員実態調査アンケート結果報告。ワークショップ等の企画、各ブロック別の交流会を予定。会員への周知は総会以降。文章及びHP、登録メールを利用して通知していく。  
(2) 平成29年度群馬県作業療法士会会員名簿作成に関して  
1) 連絡担当者のメールアドレス掲載の依頼

2) 連絡先担当者(部門代表者)の変更等についての確認  
4～5月中に書面を郵送し、手続き依頼、なるべく多くの施設のメールアドレスを掲載いただきたい旨、説明文書も併せて送付する予定

#### (3) 会員実態調査アンケートについて

- 1) 平成29年4月にアンケートを郵送
- 2) 6月末までに回収作業を終える予定
- 3) アンケートについては現在作成中  
結果の公表については、主任者会議にて部門代表者へフィードバックする。

### 【教育部】

#### (1) 研修会報告

H29.1.27 基礎ポイント研修「ペアレントトレーニングの基本と実際」参加者28名

#### (2) 今後予定

H29.3.11 精神科基礎ポイント研修「ピアサポートと作業療法」

H29.4.16 新人症例発表会(会場は渋川医療センター)

#### (3) その他

- 1) 新人症例発表会の申し込み、抄録の提出について、これまでなかったようなトラブル頻発している。対策として、県士会ニュースへの定期的な案内、啓発文章の掲載を予定。
- 2) H28年度県士会裁量ポイントの発行準備中。対象者の報告を生涯教育システムグループ長まで。
- 3) H29.3.11に協会生涯教育制度推進担当者会議。H30年度生涯教育制度改定に向けての会議開催予定。

### 【学術部】

#### 【機関誌編集グループ】

- (1) 機関誌「ぐんま作業療法研究vol.19,2016」の発刊準備と印刷を実施した。
  - ① 発送時期：平成29年3月中旬予定
  - ② 投稿論文：9題掲載 査読終了
  - ③ 特集：テーマ「作業療法実践のポイント 使っていこう!生活行為向上マネジメント」
  - ④ 総説：群馬県内でのMTDLPの取り組み  
・佐藤由子先生(うらく)
  - ⑤ 事例報告  
・池田史恵先生(本島総合)  
・石井春美先生(老健とね)  
・松井明先生(篠塚病院)
  - ⑥ ききゅう：テーマ「モンゴル国における作業療法教育支援」  
勝山しおり先生(群馬大学)
  - ⑦ 書評：「世に棲む患者 中井久夫 著」  
田村美鈴先生(厩橋病院)

#### 【学術研究グループ】

- (1) 学術支援企画として 1年コースの少人数勉強会を開催した。参加者は4病院、7名であった。うち3病院、5名が第51回日本作業療法学会に演題登録した。

#### 【学会支援グループ】

- (1) 第20回群馬県作業療法学会の開催準備に着手する予定。

### 【広報部】

#### 【公益事業グループ】

- (1) H29.1.29(日)イオン高崎にて一般向け広報活動として、作



業療法フェスティバルを実施。アクティビティ(ビーズ手芸でのプレスレット、割り箸鉄砲作り)や体力測定、自動具展示やOT紹介ムービーの上映、パネル展示を実施した。また相談コーナーやOT認知度アンケートを実施、ぐんまちゃんとの写真撮影、OTグッズとして作成したティッシュ、ボールペン、リーフレットを配布した。

#### [ホームページ管理グループ]

- (1) 業者と連携しHPの更新作業。
- (2) 来年度のHP管理業者の選定(現状では、最終決定にいたらず。近日中に部長、理事等、関係者を集め具体的な方針を明示したい)
- (3) HPのレイアウトについての情報収集

#### [ニュース編集グループ]

- (1) 県士会ニュース1月号を発行した。
- (2) 3月号の原稿依頼等の発行準備を進めている。

#### [広報企画グループ]

- (1) 現在十分な活動が出来ていない状態。
- (2) 作業療法フェスタで行った一般向け知名度アンケートの解析を行う予定。

#### [地域作業療法推進部]

##### [地域包括ケア推進グループ]

- (1) 平成28年度地域医療介護総合確保基金(介護人材)による、会員向けの研修を29.1.23(計45名参加)と2.6(計45名参加)に実施した。(埼玉県作業療法士会理事、群馬医療福祉大学教授古田常人氏より埼玉県における地域包括ケアシステム(和光モデル)の取り組み、認知症研修と地域支援についての講義)
- (2) 平成28年度地域医療介護総合確保基金(介護人材)による、士会員向けの研修3月1日実施予定。  
前橋市介護高齢課荒木裕美氏より前橋市の介護予防・日常生活総合事業の推進に関する講義をしていただく(予定)。
- (3) 年度内に行政に向けたニーズ調査を継続して実施する予定。
- (4) 平成29年度地域医療介護総合確保基金(介護人材)に継続して申請予定。
- (5) 地域リハビリテーション活動支援事業における地域ケア会議、住民運営の通いの場等へのリハビリテーション専門職種派遣システムの継続的運営とブロック支部体制強化担当部局との連携を検討していく
- (6) 群馬県理学療法士協会・作業療法士会・言語聴覚士会連絡協議会との連携するための情報共有
- (7) 群馬県介護高齢課主催、介護予防・地域リハビリテーション推進に係わる情報交換会に参加し、会長と共に当会の取り組みについて紹介した(H29.2.17 群馬県産業技術センターにて、新井会長・土屋部長・山口理事の3名が出席)

##### [認知症支援推進グループ]

- (1) 全会員向けのアンケート調査を延長(2月28日まで)して実施している。回答者数は145名(H29.2.19時点)。
- (2) 日本OT協会の伝達講習(認知症作業療法推進委員会議、H29.11.19-20実施)研修会を2.19(日)に実施した。計75名の参加、98%が「大変満足または満足」と回答。推進委員アイサービスセンターひまげの廣崎裕氏。原病院の加藤智弘氏、群馬医療福祉大学山口理事が講義した。
- (3) 地域OT推進部として新規事業(認知症対応能力向上研修)を企画し、H29年度地域総合確保基金に1,500千円程度で申請予定。
- (4) 家族会への入会は有志が個人レベル(各自の自己負担)ですすめている。

#### [特別支援教育推進グループ]

- (1) モデル事業
  - 1) 学校派遣事業60件程。現在集計中。
  - 2) 来年度、外部専門家モデルとして派遣予定。予算検討中でOT常駐についても検討もあるが、今後もこの方針となりそうである。
  - 3) 今後不登校の児童が増えていく印象。高等部では就労前評価もできるように研修を進めていく。
- (2) パイロット事業
  - 1) アンケート回収数2558件(県内小学校53校、中学校53校、高等部特別支援学校21校:127校)
  - 2) アンケートの報告書を県に提出。来年度の予算についても依頼検討中。
  - 3) OT学会に演題申請済み。
  - 4) パンフレット
    - ① 学校配布用のデザインをマニアッカーズデザイン佐藤氏に依頼中。教員をはじめ一般の方にもわかりやすい内容になるように進めている。1万部、保健センターへも配布していく。
    - ② 病院、施設に対してOTの派遣を協力して頂くよう作成。総合病院には直接伺い依頼する予定。

- (3) その他
  - 1) 5歳児検診  
藤岡、吉岡、伊勢崎とOT派遣の依頼が増えている。伊勢崎では年に20回以上の依頼となっている為、今後はエリアごとに10名程度で対応が出来るよう検討している。今後、特別支援グループの活動として教育と保健が2本柱になる。

#### 2) 研修会

小児のスプリントの勉強会を企画。

4/22 小児医療センターにて 講師牛込氏

#### [第19回群馬県作業療法学会・第2回北関東信越ブロック学会]

- (1) 12.3-4両日の参加者の述べ人数は県士会員219名、他県士会員44名、講師・発表者・座長88名、非県士会員5名、非会員5名、他職種77名、合計438名。(実行委員数、西ブロック会員84名、他ブロック会員8名、計92名)
- (2) アンケート実施し集計した。回収数がやや少なかつた。非常に良い・良かったがほとんど。参考になったという意見や5年以内の若いOTのセッションがあってもよいのでは、などの意見もあった。
- (3) 会計報告 予算内で十分行えた。

#### [設立30周年記念式典、OT協会50周年記念式典]

- (1) 無事に開催することができた。シンプルでよい式典であった。
- (2) 次回の式典時へ引き継げるように、資料を作成する。
- (3) 今後について5年ごとの式典開催は運営が大変かもしれない。学会開催と一緒にの方が運営しやすい。次40周年記念式典については、その時の学会執行部に委任する。

## II. 審議事項

- (1) 教育部・マイクの購入(資料別紙)の可否、管理についてこれまで研修会場にあるマイクや養成校・各施設のものを借用してきたが、借用しにくい状況になってきている。教育部だけでなく、広報部や学会での活用も可能。管理は教育部でよいか。  
⇒ 価格の問題もあり、次年度はまずリースで対応し、必要に応じて、見積もりを取りつつ、検討していく。備品購入品については、事務局管理とすし台帳管理していく。
- (2) 平成30年度 群馬県作業療法学会会長選出の件  
学会長候補:高橋久美子氏(群馬老人保健センター陽光苑)



実行委員長市川亮太氏(群馬リハビリテーション病院)

担当ブロック: 中・北毛ブロック

⇒ 承認

⇒ 学会長選出については今後変えていくべき。公募している所もあり、またブロック支部を活用し、地域ごとに推薦していくなど整理していく必要あり。

(3) 総会開催日・同時開催研修会について

定款により6月中旬に開催する。6/18 6/25のどちらかの日に決定する。研修会について、開催予定、希望のある部と相談していく。

⇒ 情報を集め、日にち、研修会を決定していく。

(4) ブロック組織強化事業について

1) 第2回代表主任者会議の日程

実施時期はH29年10月頃?

⇒ 会長・副会長・理事の予定の確認後、日程の調整をする。

2) 議題企画について

①各ブロックでの交流会(第1回会議ではブロック別の交流する時間が欲しいとの意見多数あった。

②ワークショップ企画【OT部門マネジメント事例】

急性期病院のOTマネジメント 回復期病院のOTマネジメント 老人保健施設のOTマネジメント 訪問リハのOTマネジメント

⇒ ブロック支部の組織立てが大切、優秀な人材発掘にもつながる。地域作業療法部との連携も必要となる。長谷川氏1人では業務過多、部員を増やしていく方向で。

3) 名簿改訂作業については昨年同様の手続きでよいか?

⇒ 同様の手続きで了承。

(5) 地域連携作業療法推進部の件

1) 「特別支援教育推進グループ」の位置づけが不適切では

ないか? 組織図上は現実的にも見えるが、全く現状に合致しておらず、部長の役割も不明確である。

⇒ あり方を検討していく。

2) 教育部との役割分担が不明確になってきている。県士会として、会員向け教育をどの様に考えるか再考する時期に来ているか?

⇒ どういう方法が効果的か、検討していく。

(7) ホームページについて

1) HPで使いたい機能を明確にしていく。(学会演題登録会員管理…)

⇒ 使用する機能によって初期投資費用などが変わってくる。業者の選定も含め、情報を集め、関根副会長・長谷川理事・都丸理事で業者と話し合い、見積もりを出してもらう。

(8) ニュースについて

リニューアルしてもよいのではないか?

⇒ 知ってほしいことを掲載する。他県士会も参考に。

(9) 次回理事会予定

H29.4.26(水) 19:00~ 住宅公社ビル3階会議室

【県士会ニュース等】

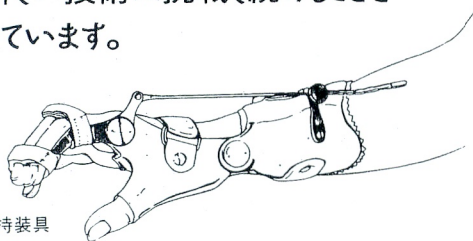
北海道: 秋田県: 東京都: 神奈川県: 山梨県: 長野県: 愛知県: 石川県: 滋賀県: 兵庫県: 三重県: 京都府: 大阪府: 広島県: 山口県: 岡山県: 島根県: 香川県: 福岡県: 群臨技: 群難連: 群馬リハネット: 群馬理学療法士協会群馬県言語聴覚士会: ケアマネ

【会員数】 802名(H29.2.22現在)

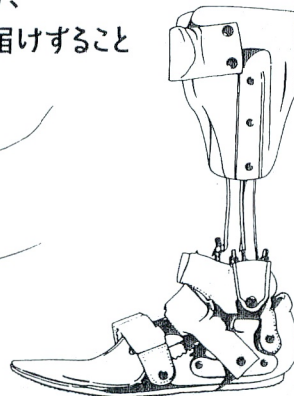
# 精緻さを力へ。乗り越える、支える力へ。

わたしたちは、常に現場の声に耳を傾け、患者さんひとりひとりに合った製品をお届けすることそして、新しい技術に挑戦し続けることを使命としています。

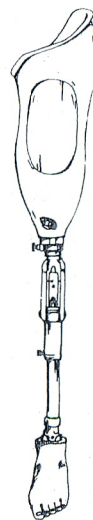
■ 把持装具



■ 座骨収納型骨格式大腿義足



■ プラスチック短下肢装具



(社)日本義肢協会会員  
ISPO会員  
日本義肢装具学会会員  
バイオメカニズム学会会員  
先端医療技術研究会会員  
技術研究組合医療福祉機器研究所組会員

取扱い/義肢・装具全般、補助具、車いす

お問い合わせは

株式会社 **高崎義肢**

〒370 群馬県高崎市井野町1235  
☎0273(61)2074(代) FAX 0273(62)6170  
振替・長野5-14820



# 新人症例発表会2017を開催するにあたって教育部の想い

一般社団法人 群馬県作業療法士会 教育部長 柴田全利  
(特定医療法人 博仁会 第一病院)

毎年4月に行われている新人症例発表会は、その年度に作業療法士になった新人作業療法士が一年間を通し培ってきた事を発表する場です。群馬県作業療法士会では日本作業療法士協会の現職者共通研修『事例報告』として扱い、生涯教育プログラムの一つとして位置付けています。先日、今年度の新人症例発表予定者の演題締め切りがありました。その際の出来事について、少しお話したいと思います。

締め切り翌日に新人症例発表会担当者から相談の電話がありました。内容は「期日を過ぎても連絡がない為、心配になり電話で確認をしたところ発表予定者から次の様な返答があり困惑している」とのこと。返答とは、「期日を知らなかった。」「同意書がない。」「郵送したが郵便料金が足りなかった。」等々…耳を疑う程の内容でした。教育部によるホームページ掲載の不手際や抄録作成方法の変更もありましたが、私が県士会教育部で10年以上活動をする中、初めての経験でした。

上記にも述べましたが、新人症例発表会は協会の生涯教育制度の事例報告として位置付けています。新人作業療法士だけでなく事例報告をしたいと考えた経験年数の若い作業療法士が自らの意思で発表する場です。発表者自身で事例報告する方法を検索し、抄録をまとめ、先輩方からアドバイスを受けながら専門職である作業療法士として、治療者として、そしてなにより社会人として自身の成長をアピールする場なのです。

作業療法士として自らの意思で行動してほしい…そのような私達の期待や想いから、敢えてリーフレット形式で全会員に郵送せず県士会ニュースとホームページで確認をしていただく方法を取っています。近年、新人症例発表自体が指導する上司からの指示だったり、職場の教育プログラムの一環だったりと環境が少しずつ変化し、本来の新人症例発表会の趣旨とは少し離れているようにも感じています。

本人の意識の問題なのか、指導する作業療法士の問題なのか、職場の問題なのか、養成校の問題なのか、私達運営サイドの問題なのか…。

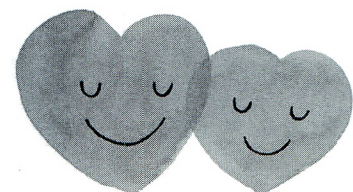
これまでの診療報酬の改定状況から勘案すると、将来は病棟等の基準に認定作業療法士や専門作業療法士という文言が入ってくる可能性もあり、作業療法士の質の向上が求められています。認定作業療法士や専門作業療法士になるためには日本作業療法士協会・各都道府県士会に属することはもちろん、各現職者研修や基礎研修を修了しなければなりません。その中の一つが事例報告です。事例報告を行う方法は多々ありますが、群馬県作業療法士会として事例報告ができる場は、新人症例発表会と生活行為向上マネジメント事例報告会しかありません。

近年の新人症例発表会参加者は、発表者と指導に関わった作業療法士の方々が主で参加人数も群馬県作業療法士会会員総数と比し、年々低下傾向にあります。しかしながら一方で、単なる症例発表に留まらず、研究にも値する知見に基づいた発表も増え、内容は濃くなっていると感じます。

日本作業療法士協会の職業倫理指針には、『作業療法士は、専門職としての自己責任に基づき、知識と技術の不断の更新の必要性を自覚し、生涯にわたり自己研鑽に努めなければならない。』とあります。また、倫理綱領には『作業療法士は、後輩の育成と教育水準の高揚に努める。』と明記されています。

当日会場に来られる方も来られない方も今一度、新人症例発表の意義や作業療法士としての成長について一緒に考えてみませんか。

私達、教育部では60名以上のスタッフが運営に携わり、新人症例発表会の準備を一年前から計画し進めています。新人作業療法士が気持ちよく発表できるような準備をこれからも心がけていきたいと思ひます。





# 施設紹介

## 医療法人樹心会 角田病院

当院は昭和53年角田内科医院として、玉村町に誕生し、平成元年に玉村町唯一の病院として、角田病院を開設しました。一般病棟、地域包括ケア病棟、回復期リハビリテーション病棟、障害者施設等一般病棟の入院施設、関連施設として介護老人保健施設、特別養護老人施設、有料老人ホーム、グループホーム、デイサービスを有しています。

さらに、コージギャラリーという院内ギャラリーを設け、群馬県立女子大学や地域住民の作品展を開催・展示しています。加えて、敷地内にリハビリパークという庭園を整備し、歩きながら四季を感じることが出来る空間を地域住民の方々へ開放する等、医療以外でも積極的に地域との関わりを深めており、玉村町になくてはならない病院となっています。

当院の理念は「健康・情熱・感謝」であり、玉村町を中心とした周辺住民が健康に生活できるよう、各入院病棟、通所リハビリ・訪問リハビリ、介護老人保健施設、介護予防事業など、急性期から生活期リハビリまで、幅広く介入を行っています。

リハビリテーション課においては、理学療法士32名、作業療法士19名、言語聴覚士8名の59名で構成され、「質の高いリハビリ」を提供することを重視しています。そのため、脳梗塞や脳出血の方のリハビリを目的に、群馬県内の病院で「HAL」を初導入したほか、マヒした部位の回復訓練に適した、新しいリハビリ手技「川平法」も取り入れております。特に、川平法については、考案者である川平和美名誉教授を年に1度招き、技術指導・講義を開催していただき、質の高いリハビリを目指しています。さらに、IVES、ウォークエイドなどの医療機器の導入を積極的に行い、リハビリの質を高めるために情熱をもって働いています。最近では、治療以外にも運転支援を確立し、地域住民の生活のマネジメントを行っています。

病院内ではフットサルサークルや野球サークルなどのサークルがあり、多職種のスタッフと交流を深め合い、現場での連携を図りやすく、患者個々に合わせたチーム医療を提供しやすい環境にあります。

作業療法士はじめ、リハビリスタッフとともに、地域住民皆様の生活をマネジメントしていき、これからも地域の中で、必要とされるセラピストになるように、努力をしていきます。

また、玉村スマートICより、非常に近いので是非皆様も当院へいらしてみてください。





# 「作業療法フェスタin高崎2017」行われました

広報部公益事業グループ長 土岐新太  
(榛名荘病院)

2017年1月29日(日)に作業療法フェスタin高崎2017が開催されました。例年、作業療法の一般の方向けの広報活動として行っているイベントで、今回も高崎市のイオン高崎2階、イオンホールを会場としての開催でした。今回は、来場者の方が一緒に体験したり、実施できる活動を中心に実施しつつ、OTについてお伝えできればという事で、ビーズのブレスレット作り、割りばし鉄砲作りと的あてゲーム、体力測定コーナーや自助具展示、OT紹介ムービーの上映等を実施しつつ、OT認知度についてのアンケートも実施しました。また、今回もぐんまちゃんが来てくれて、盛り上げてくれました。

日曜日のショッピングモールという事で家族連れの方が多く、ぐんまちゃんは大人気で、子供たちや大人も一緒に写真撮影されたりなど、ぐんまちゃん人気は健在でした。またビーズブレスレット作りや割りばし鉄砲作りなど親子で一緒に参加して頂いたり、体力測定も気軽によって頂ける内容で、好評でした。今回OTグッズとしてボールペンを製作して、風船やティッシュ、リーフレットと一緒に配布させて頂きました。相談コーナーに立ち寄りられた方もおられて、OTの認知度の向上に少しでも寄与できたのではないかと思います。今後、今回のOT認知度アンケートも参考にしつつ、今後の広報部の活動も検討していけたらと考えています。OTの啓発活動、一般の方への認知度向上に向けての活動等に関して、何かご意見等ありましたら、広報部の方までご連絡いただけたら幸いです。





# 投稿大募集!!

ニュースでは、日頃感じている些細な疑問や  
日常業務で工夫している点、こんな研修会に  
参加した…などなど、皆様からの投稿を  
募集しております。

どんなことでも構いませんので、  
お気軽にお寄せ下さい。お待ちしております!!

アドレス : reha@fukushima-hospital.com

広報部・ニュース編集グループ

伊勢崎福島病院 吉澤 一郎

県士会ホームページアドレス

[www.gunma-ot.com](http://www.gunma-ot.com)



## 編集後記

“15年モノ”と言えば旨そうな酒を想ってしまうが…。

県士会発足30周年。この内15年間、県士会ニュース編集は当院の職員が中心となって携わってきた。謂わば世襲の如く後輩へと引き継がれてきたことにはメリットとデメリットがある。子細には触れないが、県士会活動への理解と参加の在り方にも繋がる重要なことである。

ともあれ、次号より他の病院・施設に編集の任を委譲することが決まった。種々の意味で感慨を抱く。

(Y)

## 群馬県作業療法士会ニュース

発行者 || 新井 健五

発行所 || 群馬県作業療法士会事務局 〒371-0024 前橋市紅雲町1丁目7番12号 TEL・FAX 027-224-4649

編集代表 || 吉澤 一郎 編集委員 || 中村 真美、関 仁紀、反町 拓海、下田 幸 印刷 || 星野印刷株式会社